

令和4年度 第2回 甲賀市環境審議会 議事摘録

- 開催日時** 令和4年（2022年）7月13日（水）
9時55分～11時35分
- 開催場所** 甲賀市役所 会議室301
- 出席委員（敬称略）** 8名（欠席なし）
〔会長〕 竺文彦
〔委員〕 中島仁史、金子利佳、石山利則、村木一志、青木純一、
高橋美香、大西智子
- 事務局（敬称略）** 7名
〔市民環境部〕 澤田いすづ、地平勝弥
〔生活環境課〕 前田三嗣、相原功志、西野久俊、北村健太
〔産業経済部〕 八田忠
- 傍聴** なし
- 会議次第**
1. 市民憲章唱和
 2. あいさつ
 3. 審議事項
（1）甲賀市環境未来都市宣言（案）について
 4. 報告事項
（1）甲賀市の環境概要（令和3年度版）
（2）甲賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）について
（3）ごみ排出困難世帯の戸別収集について
 5. 次回審議会日程
- 配布資料**
- ・資料1 甲賀市環境未来都市宣言（案）
 - ・資料2 甲賀市の環境概要（令和3年度版）
 - ・資料3 ごみ排出困難世帯の戸別収集について

会議内容

1. 市民憲章唱和（司会朗読）

2. あいさつ（会長）

3. 審議事項（会長進行）

（1）甲賀市環境未来都市宣言（案）について

会長＞ 事務局から説明をお願いします。

事務局＞ （資料1・甲賀市環境未来都市宣言（案）について説明）

会長＞ 内容と表記について、ご意見ありましたらお願いします。

委員＞ 市に合併してから10年以上経つが「オール甲賀」という表現が必要か。

委員＞ 市民、事業所が一体となるということを行っているのではないか。

事務局＞ 意図はそのとおりです。

委員＞ 自然や歴史の記載はあるが、甲賀市は工場生産額が県内1位であるがその記載がない。未来都市と言うのであれば、新しい産業等の記載を検討してはどうか。

事務局＞ 検討します。

委員＞ 挑戦1～4は何を意識して作成しているのか。例えば挑戦1と2でエネルギーが出てきたり、水源の森と里山保全など、意図が重複していないか。ごみの問題、住宅の高性能化、モビリティ、電気自動車等はどこに当てはめるのか。市民の参画や啓発はすべてに当てはまると思う。それぞれの対応するメニューがないと、実行する計画を作成するときに大変にならないか、後で困らないか心配である。

事務局＞ 確かに重複している要素はあると思います。この宣言にすべてを盛り込むことが難しいので、具体策については実行計画に反映する予定です。

会長＞ 一番良いのは具体的なものがあって、それらをまとめてこのような挑戦があってつながっていればよいのだが、まずは挑戦という言葉であげているのだと思う。今後進めるにあたりしっかりと具体策を押さえていくことが大切である。

委員＞ 前回の審議会でも、環境全般なのかゼロカーボンなのかという議論があった中で、ゼロカーボンにフォーカスしていこうということになった。宣言について、すべてを盛り込めないことから、環境基本計画の基本方針の中で盛り込みたい部分を整理して、反映しているのではないか。挑戦4つに個別にフォーカスしているものだと思う。

委員＞ 自然エネルギーとは何を意識しているのか。太陽光では里山の保全や災害の部分とリンクしない部分があるのでは。

事務局＞ 再生可能エネルギーという表記以外で考えてみましたが、委員の皆様から何かよいアイデアがあればお願いします。

委員＞ だんだん技術力向上し、自然エネルギーだけではなく、再生可能エネルギーがたくさん出てくることから、再生可能エネルギーの方が良いのでは。

委員＞ エネルギーは作れるようになってきている。むしろ、地球に恩返しでききるエネルギーを考えなければならない。

会長＞ 「ゼロカーボンシティへオール甲賀」、とあるが、ひらがなの「へ」も含めカタカナが連続するように見える。どこかで区切れる表記の方が良いのでは。

会長＞ 審議会から色々な意見が出てすべて反映できるものではないと思う。それよりも、宣言後どのように市民に知らせるのか、具体的にどのような政策を行うのが重要ではないか。例えば、啓発用の垂れ幕を作成してはどうか。

委員＞ 1～4の挑戦をすべて実施すれば本当にゼロカーボンが達成できるのか疑問である。今後の取り組みに結びつかないといけない。環境意識について挑戦5に入れるべきではないか。

会長＞ 審議会として、しっかりと監視していく必要がある。

事務局＞ 象徴的な具体のものを含めて表現しています。環境意識については大変重要であることから検討します。

会長＞ BDF化、RPF化も大変良い取り組みであるので、記載すればどうか。

委員＞ 宣言文は複数印刷されると思うが、みんなが分かるような広報を十分検討してほしい。

事務局＞ 「未来」という表記について漢字よりもひらがなの方が良いのではという意見もありますが、いかがでしょうか。

会長＞ 意図的にひらがなにしている部分もあるが、ここは漢字が続く方が良いと思われる。

委員＞ その方が普通に読める。

委員＞ 小学校の授業でも、「再生可能エネルギー」を習い始めているので、自然エネルギーという新しい表記より、みんなが知っている再生可能エネルギーの方が良いと思う。

委員＞ 「未来都市宣言」と言っている一方で、この内容ではあまり未来を感じられず、わくわく感がない。「教育」や「人を育てる」という言葉があると子育て世代は期待する。暮らしの中で実感できるのであれば、甲賀市に住みたい、甲賀市に戻りたいと思わせる内容にした方が良いのではないか。

委員＞ 今までと同じことをしているのではなく、みんなと一体化して将来につながるようなイメージにならないといけない。キャッチフレーズも必要。

会長＞ 確かに、子どもたちを育てる・託すといった表現があると未来という言葉も生きてくる。

委員＞ 前回あった「未来の子どもたちにつなぐ」という表現がなくなってしまう。

事務局＞ いただいたご意見を受けて検討します。

4. 報告事項

(1) 甲賀市の環境概要（令和3年度版）

事務局＞ （資料2・甲賀市の環境概要について説明）

委員＞ 6～7ページの地点図について、赤は水質・青は大気等の凡例等を記載するとともに、地図に縮尺が必要ではないか。

7ページ以降、グラフの説明で数字の記載があるが何を示しているのか。

事務局> 数字はこの資料では不必要な記載であることから、削除します。

委員> 自動車騒音について、等価騒音レベルの説明を記載する必要があると思う。基準値を超過している部分について、結果を載せるだけでなく、考察を記載した方が良いのでは。

委員> レッドリストについて、市民に向けての発信であるため、絶滅危惧種等を変更した部分、数値が変わった理由について記載した方が良いのでは。

委員> 10年スパンになったので見やすく改善されている。メモリ幅や省略などグラフの見せ方に工夫があっても良い。

会長> 結果データを着実におさえておく意味は大きい。

(2) 甲賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）について

事務局> （甲賀市地球温暖化対策実行計画について予定等を報告）

委員> 計画策定の委託というのとはどのような内容であるのか。

事務局> 2050年にゼロカーボンを実施するための推計や市民事業者の取り組み実態、再生可能エネルギーのポテンシャル等を調査する。プロポーザルにより、優れた提案をされた業者と契約を締結する予定です。

(3) ごみ排出困難世帯の戸別収集について

事務局> （資料3・ごみ排出困難世帯の戸別収集について説明）

会長> 個人的には、行政ではなく、近所内で助け合う方が良いのではないか。

その他

委員> 宣言の方法は全く決まってないのか。PRの方法を十分検討してほしい。

事務局> 十分に検討いたします。

5. 次回審議会日程

令和4年8月26日（金） 午後から

○閉会あいさつ（職務代理者）

今後宣言を行い、実行計画を策定するにあたり、脱炭素以外にも、地域の活性化につなげてほしい。